

【瀬谷区】平成 30 年第 2 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	平成 30 年 6 月 1 日 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座 長】花上喜代志議員</p> <p>【議 員： 2 名】加納重雄議員、川口広議員</p> <p>【瀬谷区： 4 0 名】森秀毅区長、石原孝副区長、 五十嵐吉光福祉保健センター長、 守屋龍一福祉保健センター担当部長、 井上義晃土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	1 平成 30 年度 個性ある区づくり推進費（自主企画事業）執行計画
発言の 要 旨	<p>川口議員：今後の瀬谷区のあり方として、人々が住みたいと思う街づくりを目指すのか、または瀬谷区に人を呼び、経済の潤う街づくりをしたいのか、どう考えているのか。</p> <p>森区長：旧上瀬谷通信施設の土地利用や、相鉄・JR、相鉄・東急の相互直通運転等により、瀬谷区全体を活性化させ、経済活動につなげていくことも大事なことだと思っています。一方、自然が多くても、比較的利便性が高く、皆さんがほっとできるような住みやすい居住環境であるべきだとも思っていますので、その両面を兼ね備えた瀬谷区づくりを目指していきます。</p> <p>川口議員：5月に旭区の公園で、民間がイベントを開催し、そのPRで、相鉄線内、横浜駅にポスターが貼られていた。瀬谷区では、民間と連携して人を呼ぶための取組を考えているのか。</p> <p>森区長：来年の瀬谷区制 50 周年をきっかけに、いろいろな取組を考えていきたいと思っています。毎年開催している瀬谷フェスティバルも区内区外から数万人の来場者がありますので、それ以外のイベントも含め、しっかりPRしていきます。</p> <p>川口議員：せやっこ農体験を上瀬谷だけで行っているのは、何か理由があ</p>

るのか。

伊澤地域振興課長：この事業に御協力いただき、土地を貸していただいていますのが、上瀬谷の農家の方ということで、例年上瀬谷で実施しています。ただし、事業の周知は瀬谷区内の全小学校等に行っています。

川口議員：家庭問題を持つ家族の下で育ち、心理的外傷を抱えたまま大人になってしまった方に対し、アダルトチルドレンという言葉が生まれてきているようだが、そのような方からの相談、あるいは行政からの支援というものはあるのか。

柴山こども家庭支援課長：子どもの支援と同時に、子育ての悩みなど、母親とのカウンセリング等、親に対する支援も行っています。また、子どもたちの生活リズムの改善や、できるだけ多くの社会体験を通して成長できるように生活体験宿泊事業を実施しています。

川口議員：ウォーキングポイントのアプリの登録者数は、瀬谷区内で何人ぐらいいるのか。

野田福祉保健課長：市全体では約4千人ほどだと思います。区別の登録者数は現在わかりませんが、アプリについてはいろいろな形でPRしていきたいと思います。

川口議員：アプリを利用し、商店街との連携を図れないか。

伊澤地域振興課長：アプリの中にウォーキングコースやチェックポイントが載せられますので、そういった部分で検討の余地はあると考えています。

川口議員：和泉川魅力PR事業の体験型イベントとは、どういうものか。

藤澤区政推進課長：親子で、和泉川の水辺の生き物を採集し、種類別にミニ水槽に並べ、ミニ水族館を作ったり、自然素材を使用したクラフト体験として、万華鏡づくりを昨年9月に実施しました。

川口議員：ガーデンネックレス横浜の中で、里山ガーデンフェスタが実施されたが、瀬谷区と里山ガーデンとの連携はあったのか。

藤澤区政推進課長：4月14日を瀬谷区デーとして、ブースを設け、エコバックのぬり絵や瀬谷区制50周年のPR等を実施しました。

川口議員：旧上瀬谷通信施設の土地利用に関して、区役所はどのような動きをしているのか。

藤澤区政推進課長：主なものとして、区の連合町内会長をメンバーとする上瀬谷通信施設返還対策協議会をほぼ2か月に一度開催し、関係局課との

情報交換を行っています。

川口議員：瀬谷区では、スマートイルミネーションはやらないのか。

藤澤区政推進課長：いまのところ企画はしておりませんが、少し検討させていただきたいと思います。

川口議員：電子書籍は、文字が簡単に拡大できるということから、年配の方に少しずつ広まっているという記事を読んだことがあるが、図書館の中に電子書籍を取り入れる検討はしているのか。

大嶋読書活動推進担当課長：電子書籍については、中央図書館が市全体の検討をしていますが、電子書籍の購入形態がアクセス権の購入ということから、例えば、契約も1年または2年となり、購入しても市の所有物とはならないということ。また、アクセス権を購入できるものが3万点近くあるようですが、かなり古いものが多いと聞いています。このことから、中央図書館の検討では、電子書籍を貸し出す体制を整えるというところまでにはいたっていません。

川口議員：国際園芸博覧会のような大規模イベントが瀬谷区内で開催された場合、来られた方は必ず土産物を購入して帰ると思う。その土産物の代表になる可能性があるものとして「瀬谷の逸品」があると思うが、区の考えはどうか。

伊澤地域振興課長：商店街、あるいは個々の商店、商品は魅力のあるものにしたいと思いますし、大きなイベントが開催された場合には、ぜひ購入していただけるようPRしていきたいと思っています。

加納議員：来年、瀬谷区制50周年を迎えるが、その後の50年の瀬谷区の方角性をどう考えているのか。

森区長：瀬谷区では、以前から住んでいる方と、新しく瀬谷区に住まわれた方が、上手に融合して、しっかりとしたコミュニティが形成されるという、これまでの歴史があります。これは大切な財産ですから、これからも育てていきたいと思っています。しかしその一方で、地域の高齢化が進んでいるのも事実ですから、その対策を考えながら、この素晴らしいコミュニティを維持していく必要があると思います。またそれに加え、区外市外の方が遊びに来たくなる、また、住みたくなる。そのような、地域に活気があり魅力のある瀬谷区になるよう、いろいろなことを考えていくことが大事だと思っています。

加納議員：「外国につながる子育て世帯への支援」とあるが、外国につな

がる方は何人ぐらいなのか。

柴山こども家庭支援課長：平成 30 年 3 月現在で、中国の方が 483 人、ベトナムの方が 337 人、フィリピンの方が 205 人で、外国籍につながる方の総数は 1,713 人です。

加納議員：どういうところにお住まいなのか。

柴山こども家庭支援課長：公営団地にお住まいの方が多くに思います。

加納議員：自治会・町内会といったような自治組織の相談などはあるのか。

伊澤地域振興課長：外国籍の方からというより、自治会・町内会長からお話をいただくことがあります、外国籍の方に支援者がいることが重要だと思いますので、自治会・町内会への加入を働きかけていきたいと思えます。

加納議員：「放課後児童育成支援事業」で行う研修の内容を教えてください。

山梨学校連携・こども担当課長：平成 29 年度は 4 回行いました。1 回目が「普通救命講習」、2 回目が「障害児理解と対応」、3 回目が「保護者対応」、4 回目が「子どもを守る不審者対応」です。

加納議員：発達障害については、地域社会が認識しなければいけないと思う。その中でも一番身近な「放課後キッズクラブ」「はまっこふれあいスクール」「放課後児童クラブ」の指導員や関係者はしっかりとした認識を持つべきと思うが、どうか。また今後、どのようなところに力を入れようとしているのか。

柴山こども家庭支援課長：発達障害のあるお子さんについては、乳幼児健康診査等で保護者から不安を聞き取り、個別に対応しておりますが、その中で育て方のアドバイス等、保護者に対する支援のレベルアップが必要と思っております。

加納議員：乳幼児健康診査で、1 歳 6 か月児健診は受けたが、3 歳児健診を受けてないという方がいるようだが、状況の把握はしているのか。

柴山こども家庭支援課長：3 歳児健診は 4 歳になるまで受けられますので、それを過ぎましたら、1 件 1 件ご自宅に電話をしたり、保育園、幼稚園に確認したりということで、その状況について調査をしています。

加納議員：早い時期に、子どもさんに発達障害の疑いがあると認識できると、個性として見ることもでき、その子どもさんの負担も軽減されると思うが、乳幼児健康診査でどのようにして、その疑いを判定しているのか。

柴山こども家庭支援課長：疑いというのは、医師の診断に加え、保健師がお子さんの様子ですとか、保護者の持つ不安を聞き取るとか、1件1件問診を行っています。

加納議員：発達障害の疑いを見つける、様々な機器等があると思うので、そういったものの導入と研修を要望しておきます。

加納議員：自殺対策というのが大きな課題となっているが、メンタルヘルスについて、なにか取り組んでいるのか。

守屋福祉保健センター担当部長：転入職員を含めてゲートキーパー研修を全員に行っています。また、区民向けには、講演会を行っています。

加納議員：福祉保健センター長にお聞きしますが、セクシャルハラスメントとパワーハラスメントについてのご意見を伺いたい。

五十嵐福祉保健センター長：ハラスメントは絶対にやってはいけないことだと思っています。職員の士気を下げ、ひいては区民の満足度を下げることだと思っています。

加納議員：空き家の問題について、どのくらいの相談がきているのか。

藤澤区政推進課長：相談件数は、51件です。現地確認をし、親族調査をして、手紙を送っています。また、半年に1回程度、現況の確認をしています。

加納議員：瀬谷区に対する要望の1位が「交通・道路」となっているが、どのような要望なのか。

藤澤区政推進課長：1番目が「道路整備の問題」、2番目が「駐輪場の問題」、3番目が「交通安全対策」です。

加納議員：道路の問題は土木事務所の所管だと思うが、この結果をどう考えているのか。

六度瀬谷土木事務所副所長：陳情件数で見ますと、平成26年度が3,300件、平成29年度が2,600件ということで、陳情件数は徐々に減少していると理解しています。舗装の傷み等の陳情には優先順位により対応していますが、予算の問題もあるため、道路局にも予算のお願いをしています。

加納議員：ハマ弁を食べた感想を伺いたい。

山梨学校連携・こども担当課長：下瀬谷中学校でカレーを食べましたが、ご飯の量も選ぶこともできますし、野菜も多く、バランスを考えた料理だと感じました。

加納議員：消防関係として、平成29年の火災の件数、焼損面積、救急件

数等を踏まえた感想を伺いたい。

八剣瀬谷消防署長：平成 29 年は連続放火があったため、火災件数としては、非常に増えてしまいました。平成 30 年は現在のところ 12 件という状況です。焼損面積は平成 30 年 3 月に大きな火災がありましたので、今年はずでに昨年 の 3 倍の焼損面積となっています。救急件数は増えておりますが、伸び率については、市内平均を下回ったと思います。

加納議員：瀬谷区では、聴覚障害の方たちが、救急件数を減らすために、タクシー会社にファックスで連絡をしているが、市内全体ではどうなっているのか。

深澤瀬谷消防署副署長：その件については、消防局の救急課に情報提供し、市内に広げるよう、啓発はしています。

渡辺高齢・障害支援課長：4 月の「広報よこはま区版」でも周知しています。まだ、登録件数は多くない状況ですが、相談があった際には、すぐに紹介できるようにしたいと思っています。

花上議員：私が議員となった昭和 54 年当時は、インフラの整備も遅れていて、他の区に比べ遅れた区というイメージが先行していた。それが、インフラ整備も進み、今では「横浜の西の玄関口」という言葉が一般的になってきた。来年、瀬谷区制 50 周年を迎えるが、現在、瀬谷区は、旧上瀬谷通信施設の土地利用、瀬谷駅南口の再開発、二ツ橋方面の開発等と、瀬谷区制 50 周年を大きな節目として変貌をとげようとしている。職員もこれからの瀬谷区をどう発展させていくかという認識を、瀬谷区制 50 周年を節目として、改めて持たないといけないと思うが、どうか。

森区長：瀬谷区が区制 50 周年を節目として、大きく発展していくという認識は私も持っていますし、区の職員がそういう認識をしっかりと持つことが大事だと思っています。瀬谷区制 50 周年を契機に大きく飛躍すべきという認識については、しっかりと職員と意見交換していきたいと思っています。

花上議員：要介護認定者数がこの 3 年でも、3%ずつ増えているが、今後の見通しはどうか。

渡辺高齢・障害支援課長：瀬谷区は 18 区の中でも、高齢化が進んでいる区になっています。今後も 75 歳以上の人口が増えていくという見込みです。介護を受ける原因として、認知症も大きな原因となっていますので、認知症の早期発見を重視し、75 歳以上の人口の増加に比例して、要介護認

定者数が増えていくことのないように考えていきたいと思ひます。

花上議員：高齢化社会が進んでくる中、高齢の方でも元気に地域活動をされている方がいる。一方では、高齢者が事故を起こしたというようなニュースが流れてくる。地域の第一線で頑張っている高齢者を追いやることがあつてはならないと思うが、行政としては地域の高齢者の活動をどう考えているのか。

森区長：高齢化社会といわれる中でも、元気な高齢者が大勢います。今までお世話になった地域に貢献したいという強い思いを持った方も多く、地域がそういった方の受け皿を用意できれば、地域としても元気になると思ひます。地域の中で元気な方がサポートに回り、お互いに見守りあうという体制を作れるようにと、区職員が地区支援チームを作り、地域に入り助言等をさせていただきます。

花上議員：二俣川周辺が「横浜の西の副都心」と位置づけられているが、瀬谷区の発展を思えば、瀬谷区まで「横浜の西の副都心」の位置づけを拡大してもいいのではと思ひている。行政として具体的なビジョンを描くような取り組みが必要ではないか。

森区長：旧上瀬谷通信施設の土地利用計画が大切になってくると思ひますので、区としてもしっかりと関わっていきたく思ひます。具体的には、瀬谷から上瀬谷へのアクセス、南北方向の交通を考えていくことが大事だと思ひています。東西に走る相鉄線だけでは南北方向の交通が弱いので、バランスある道路交通ネットワークを見直していくことが大事だと思ひています。

花上議員：瀬谷区の花はアジサイなので、瀬谷区制 50 周年のロゴマークにもアジサイの花が描かれている。でも、市全体を見れば、横浜市の花はバラなので、アジサイも大事だが、バラの花も瀬谷区内に展開していくべきではないか。

藤澤区政推進課長：瀬谷区の花であるアジサイに意識がいつていましたが、今後は市の花であるバラも意識していきたく思ひます。また、オープンガーデンで、バラ園のあるお庭を紹介することもPRのひとつのやり方と思ひています。

花上議員：消防団員はその定数を満たしているのか。

八劔瀬谷消防署長：310 人の定数に対しまして、4月1日現在 310 人ということで定数を満たしていましたが、現在は1人減となり 309 人となって

	<p>います。年末までには、315人まで団員を増やし、転居などで減員が生じても100%維持できるように頑張っていきたいと思います。</p> <p>花上議員：消防団員が様々なイベントや訓練等に常に動員をかけられ、非常に困っているという記事を読みましたが、瀬谷区の場合はどのような状況なのか。</p> <p>八剣瀬谷消防署長：今年度になりまして、訓練等も集中的にやろうということで、整理をしました。消防団員の方も自分の仕事を持って、消防団員になっていただいていますので、過度な負担をかけないよう効率的にやっ ていければと思っています。</p> <p>加納議員：瀬谷区のごみ収集状況で、平成29年度分の数字はまだ出ないのか。ごみの総量が減ってきているが、その現状は。ふれあい収集の実 施世帯数が増えているが、その現状と課題は何か。</p> <p>益田資源化推進担当課長：集団回収等の実績の集計が2か月遅れになるため、平成29年度分の数字はまだ出ていません。ごみの総量の減少については、区民の皆様がごみを増やさない取組をしっかりとっていただいたからだと思います。また、社会的にもごみが出ない仕組みができてきて、それが一体となって、ごみの減量につながっているのかとも思います。ふれあい収集は、高齢化が進む中で実施世帯が増えています が、区と資源循環局と一体となって、対応していきたいと思っています。</p>
備 考	